

実施日：12月15日（4校時）	
領 域：道 徳（特別の教科 道徳）	
取組名：部落差別解消の意欲と実践力を育む（「祭りばやしが聞こえる」旧きらめき 兵庫県教育委員会）	
対 象：3年生	実施場所：3－1教室
ア ねらい ・ 部落差別が人々の幸せな生き方を阻んでいることに気づき、仲間と共に差別の解消に努めようとする意欲を育てる。 【人権教育の視点に立ったねらい】 ・ 部落差別を解消してきた過程を知り、それは社会全体の人権問題の解消であったことを理解する。また、これからの生活で人権を守るために、差別に気づき、差別をなくそうと行動できる意欲を育てる。 ・ 自分の考えを持ち、互いの意見を交流し合うことで、差別を見抜く力を養い、差別をなくそうとする行動に気付く。 【人権教育に関するキーワード】 ・ 全ての人の幸せにつながる ・ 自ら解決すべき問題である	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要【別紙④】 【導入】めあての確認…何らかの理由で結婚に反対されたとき、あなたははどうするだろう？ 【展開】 ① 資料の範読・内容理解 ② 発問①「なぜこの家族は乗りこえられたのだろう」 〔個人思考〕→〔全体共有〕 ③ 発問②「あなたならどうやって乗りこえますか・なぜそうするのですか」 〔個人思考〕→〔グループ思考〕→〔全体共有〕 ※ 話し合いの際には、他者の人権を尊重する聞き方・反応の仕方等に注意させる。 ※ 問い返しにより、考えを深めさせる。 【まとめ】本時の「人権教育に関するキーワード」を確認し、これまでの同和学习をふり返らせる。	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 懇談会・通信等を通じて、これまでの人権・同和学习での生徒の学びと成長を伝える。また、社会を良くしたいという生徒の思い、学校・家庭がしっかりと支える必要があることを、このような機会に発信していく。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 「差別がなくなしてほしい」という第三者的な視点ではなく、「自らの行動でなくしたい」「自分の中にある差別心と向き合いたい」等、差別解消の主体としての立場を考えさせる問いかけや、問い返しができるか、事後の学年会議や校内研修で確認していく。	
カ 評価の方法 感想【別紙⑤】	
キ 成果 人権教育に関するキーワードを意識した授業展開によって、「差別心は自分の中にもあるということ」を忘れない」「人のために本気で協力できるように自分を変えたい」「私が学んで差別に気付く人になりたい」等、これまでやこれからの自分自身の生き方と関連付けて考えようとする生徒が多く見られた。	
ク 課題 グループ思考の際、自分の考えを伝えたり、他者の意見を尊重して聞くことはできた。しかし、それを基に、相手の考えをさらに深く聞いていくことや、他者の意見に対して疑問を投げかけていくという双方向の話し合いができる指導が課題である。	